

桜井市纏向学研究センターのあゆみ

1. 設立の背景

奈良盆地南東部に位置する纏向遺跡においてはじめて本格的な発掘調査が実施されたのは、今からおよそ 50 年前、昭和 46 年から 47 年にかけてのことである。雇用促進住宅・県営住宅・市立纏向小学校の建設に先立つ一連の調査の成果は、昭和 51 年刊行の発掘調査報告書『纏向』において詳細に報告され、纏向遺跡は古墳時代前期の大規模集落遺跡として大いに注目を集めることとなった。

その後、奈良県立橿原考古学研究所や桜井市教育委員会による発掘調査が毎年のように実施され、辻地区や太田地区、巻野内地区など、集落域の中核部と目されるエリアにおいて数々の重要な成果が得られるとともに、纏向石塚古墳やホケノ山古墳、箸墓古墳周辺など、古墳出現期の大型墳墓の調査が大きく進展する。関連する研究も盛んに行われるようになり、纏向遺跡がヤマト王権最初の大王都であった可能性が高まるとともに、我が国における古代国家形成期の状況を示す極めて重要な遺跡であることが知られるようになっていく。

このような調査・研究の成果に基づき、まずは平成 18 年 1 月に纏向古墳群（纏向石塚古墳・ホケノ山古墳）が史跡指定を受け、続いて纏向遺跡についても保存・整備を求める声が次第に高くなった。桜井市では平成 20 年度より辻地区の確認調査に着手し、また同年より、纏向遺跡の調査研究及び保存活用に向けた取り組みを担う「研究センター」設立の検討を開始、平成 21 年度には辻地区において大型建物跡を含む建物群や祭祀土坑などが確認されている。纏向遺跡への注目度がさらに高まるなか、平成 23 年 4 月 1 日、旧市立纏向幼稚園舎において設立準備業務を開始し、1 年後の平成 24 年 4 月 1 日、桜井市纏向学研究センターが設立された（写真 1）。

2. 役割と活動

「纏向学」の実践を担う学術研究機関として、また纏向遺跡の調査研究及び保存活用に向けた取り組みを総合的にを行うことを目的として設立された桜井市纏向学研究センターは、桜井市教育委員会の研究機関として位置付けられている。センター職員は所長及び市文化財課調査研究係の 3 名が専従するほか、同課の文化財技術職員全員がセンター研究員に任命されており、調査事業、研究事業、教育・普及事業、保存・整備事業を 4 つの柱として様々な活動を行ってきた。

調査事業 センター設立に先駆けて着手した辻地区の範囲確認・構造説明調査は、平成 20 年度から 26 年度にかけて実施され、纏向遺跡中核部の建物群や区画施設などが確認されるなど、大きな注目を浴びることとなった（写真 2）。また平成 29 年度には太田地区の整備事業に先立つ発掘調査を実施し、前方後方墳であるメクリ 1 号墳とともに墓域を形成する方形周溝墓群が確認されている。

これらの調査に加え、過去に実施された調査の未報告資料の整理作業と報告書刊行を行い、纏向遺跡の学術的価値を広く公表することにも努めている。



写真 1 桜井市纏向学研究センター開設（平成 24 年 4 月）



写真 2 第 166 次調査現地説明会（平成 21 年 11 月）

研究事業 当センターでは非常勤共同研究員制度を設け、古代史・考古学・自然科学・神道史・民俗学・建築史などを専門とする研究者を迎え、多角的な視点からの研究を行っている。所長・研究員及び顧問・共同研究員が参加する定例研究集会は、年1回、2日間にわたって開催し、研究成果をまとめた研究紀要『纏向学研究』は、令和3年度までに累計9巻を刊行している（写真3）。

教育・普及事業 「纏向学」を広く普及・啓発する事業として、講座・シンポジウム等を開催する。

「纏向考古楽講座」は、小学校高学年以上の考古学初心者である市民を対象として体験学習や実地見学を行い、文化財への関心を深めることを目的として実施している。

市内や奈良県内の方々を対象に年2回開催する「纏向学セミナー」は、共同研究員をはじめとする「纏向学」に造詣の深い講師の講演と、所長との対談で構成される好評企画である。毎回300人前後の参加申し込みがあり、令和3年度までに計15回開催している（写真4）。

市の観光部局と連携して開催する「東京フォーラム」は、首都圏の方々を対象として毎年1回開催するイベントで、複数人の講師による講演とシンポジウムで構成される（写真5）。令和3年度までに「纏向出現」「卑弥呼」発見！」をテーマとして計8回開催、例年1,000人近い参加者があり、纏向遺跡の知名度向上に繋がっている。

このほか広報誌『纏向考古学通信』を年1～2回のペースで刊行し、当センターの事業や纏向遺跡の調査・研究の動向を紹介している。

保存・整備事業 平成25年10月の纏向遺跡の史跡指定以降、纏向遺跡の保存・整備に向けた事業を実施している。平成27年度には「史跡纏向遺跡・史跡纏向古墳群保存活用計画」を策定し、平成28年度には太田地区の史跡隣接地に便益施設（遺跡見学者用トイレ）を設置、平成29年度には辻地区において建物跡を復元明示する仮整備を行い（写真6）、平成30年度～令和元年度は太田地区のエントランス広場を整備し、史跡纏向遺跡の第1期整備事業を完了している。

また整備事業と並行して、史跡の追加指定・公有化を進めている。纏向遺跡（辻地区）では平成31年2月と令和3年3月に、纏向古墳群（纏向石塚古墳）では令和3年3月にそれぞれ追加指定を受け、史跡の保存が図られている。



写真3 研究紀要『纏向学研究』



写真4 纏向学セミナー（第1回 平成25年7月）



写真5 東京フォーラム（第7回 平成30年10月）



写真6 辻地区仮整備状況（平成30年4月）

桜井市纏向学研究センターの主な活動

年	月	日	主 な 活 動
平成 23 年 (2011)	4	1	旧纏向幼稚園にて桜井市纏向学研究センター設立準備業務開始 寺沢薫（現所長）が桜井市纏向学研究センター設立準備顧問に就任
	9	1	調査情報誌『纏向考古学通信』Vol. 3 刊行（Vol. 1 は平成 21 年 7 月に刊行）
	11	7	第 1 回桜井市纏向遺跡調査委員会開催
	12	5	纏向遺跡第 173 次調査開始（～平成 24 年 3 月 26 日）
	12	27	桜井市纏向学研究センター条例公布
平成 24 年 (2012)	2	10	第 2 回桜井市纏向遺跡調査委員会開催
	2	18	纏向遺跡第 173 次調査・茅原大墓古墳第 5 次調査現地説明会開催（参加者延べ約 1,600 人）
	3	29	桜井市纏向学研究センター条例施行規則公布
	3	30	『史跡纏向古墳群 纏向石塚古墳発掘調査報告書』刊行
	4	1	桜井市纏向学研究センター開設 寺沢薫所長着任
	8	22	纏向学研究センターホームページ開設
	9	1	『纏向考古学通信』Vol. 4 刊行
	10	21 ほか	10/21、11/18、12/16 纏向考古学講座開催
	10	29	第 3 回桜井市纏向遺跡調査委員会開催
	11	1	顧問（2 名）・共同研究員（15 名）任命
	11	14	纏向遺跡第 176 次調査開始（～平成 25 年 3 月 6 日）
平成 25 年 (2013)	11	16	「纏向学」商標登録
	11	30	纏向学研究センター年報第 0 号刊行
	1	31	第 4 回桜井市纏向遺跡調査委員会開催
	2	3	纏向遺跡第 176 次調査現地説明会開催（参加者約 1,300 人）
	2	10	纏向学研究センター設立記念 東京フォーラム（Ⅰ）『纏向出現—卑弥呼が纏向にいたなら—』開催 講師：広瀬和雄氏、赤塚次郎氏、橋本輝彦 コーディネーター：寺沢所長 パネラー：苅谷俊介氏
	2	23・24	第 1 回定例研究集会開催
	3	29	研究紀要『纏向学研究』第 1 号刊行
	5	31	『纏向遺跡発掘調査概要報告書—トリイノ前地区における発掘調査報告書—』刊行
	7	1	『纏向考古学通信』Vol. 5 刊行
	7	6	第 1 回纏向学セミナー開催 『文化遺産「纏向遺跡」の意義とその将来』講師：坂井秀弥氏 対談：寺沢所長
	9	15 ほか	9/15、10/20、11/17 纏向考古学講座開催
	10	8	第 5 回桜井市纏向遺跡調査委員会開催
	10	17	纏向遺跡 史跡指定
10	30	纏向遺跡第 180 次調査開始（～平成 26 年 2 月 24 日）	
11	4	東京フォーラムⅡ『纏向出現—卑弥呼は九州にいたか？—』開催 講師：苅谷俊介氏、片岡宏二氏、七田忠昭氏、橋本輝彦 コーディネーター：寺沢所長	
11	29	纏向学研究センター年報第 1 号刊行	
平成 26 年 (2014)	1	21	第 6 回桜井市纏向遺跡調査委員会開催
	1	25	第 2 回纏向学セミナー開催 『纏向王宮へのみち』講師：石野博信氏 対談：寺沢所長
	2	9	纏向遺跡第 180 次調査現地説明会開催（参加者約 1,700 人）
	2	22・23	第 2 回定例研究集会開催
	3	28	『纏向考古学通信』Vol. 6 刊行
	3	31	研究紀要『纏向学研究』第 2 号刊行 第 7 回桜井市纏向遺跡調査委員会開催
	7	26	第 3 回纏向学セミナー開催 『原倭国の形成と纏向遺跡』講師：森岡秀人氏 対談：寺沢所長
	7	31	『纏向考古学通信』Vol. 7 刊行
	8	1	纏向遺跡第 182 次調査開始（～9 月 16 日）
	8	29	纏向学研究センター年報第 2 号刊行
	9	28 ほか	9/28、10/26、11/30 纏向考古学講座開催
	10	27	纏向遺跡第 183 次調査開始（～平成 27 年 2 月 6 日）
	11	16	東京フォーラムⅢ『纏向出現—邪馬台国東遷説を考える—』開催 講師：苅谷俊介氏、柳田康雄氏、森暢郎 コーディネーター：寺沢所長

年	月	日	主 な 活 動
平成 27 年 (2015)	1	13	第 8 回桜井市纏向遺跡調査委員会開催
	1	24	第 4 回纏向学セミナー開催 『花粉が語る纏向遺跡』 講師：金原正明氏 対談：寺沢所長
	2	1	纏向遺跡第 183 次調査現地説明会開催（参加者約 1,100 人）
	2	17	第 1 回纏向遺跡保存管理・整備活用計画策定委員会開催
	2	21・22	第 3 回定例研究集会開催
	3	31	研究紀要『纏向学研究』第 3 号刊行
	3	31	『纏向遺跡発掘調査報告書 3—35 次・63 次・72 次調査—』刊行
	6	29	第 2 回纏向遺跡保存管理・整備活用計画策定委員会開催
	6	30	『纏向考古学通信』Vol. 8 刊行
	7	25	第 5 回纏向学セミナー開催 『匈奴国から見た纏向遺跡』 講師：赤塚次郎氏 対談：寺沢所長
	9	17	第 3 回纏向遺跡保存管理・整備活用計画策定委員会開催
	9	26ほか	9/26、10/24、11/28 纏向考古学講座開催
10	30	纏向学研究センター年報第 3 号刊行	
12	14	第 4 回纏向遺跡保存管理・整備活用計画策定委員会開催	
平成 28 年 (2016)	1	23	第 6 回纏向学セミナー開催 『ヤマト王権と葛城の地域集団』 講師：坂靖氏 対談：寺沢所長
	2	1	第 5 回纏向遺跡保存管理・整備活用計画策定委員会開催
	2	14	東京フォーラムⅣ『「卑弥呼」発見！「宮室、楼観、城柵、蔽かに設け…」—卑弥呼の居処—』開催 講師：武末純一氏、黒田龍二氏、仁藤敦史氏、森暢郎 コーディネーター：寺沢所長 パネラー：荻谷俊介氏
	2	20・21	第 4 回定例研究集会開催
	3	10	第 6 回纏向遺跡保存管理・整備活用計画策定委員会開催
	3	21	纏向遺跡第 188 次調査開始（～3月22日）
	3	31	研究紀要『纏向学研究』第 4 号刊行 『史跡纏向遺跡・史跡纏向古墳群保存活用計画書』刊行
	7	16	第 7 回纏向学セミナー開催 『纏向以前—唐古・鍵遺跡と邪馬台国—』 講師：藤田三郎氏 対談：寺沢所長
	7	19	『纏向考古学通信』Vol. 9 刊行
	9	17ほか	9/17、10/29、11/26 纏向考古学講座開催
	10	9	東京フォーラムⅤ『「卑弥呼」発見！「鬼道を事とし、能く衆を惑わす」—卑弥呼の鬼道—』開催 講師：荻谷俊介氏、石川日出志氏、辰巳和弘氏、武田佐知子氏 コーディネーター：寺沢所長
11	30	纏向学研究センター年報第 4 号刊行	
平成 29 年 (2017)	1	21	第 8 回纏向学セミナー開催 『卑弥呼の鬼道と壺形墳の誕生』 講師：辰巳和弘氏 対談：寺沢所長
	2	9	箸墓古墳周濠 史跡指定
	2	18・19	第 5 回定例研究集会開催
	2	27	第 7 回纏向遺跡保存管理・整備活用計画策定委員会開催
	3	30	『纏向考古学通信』Vol. 10 刊行
	3	31	研究紀要『纏向学研究』第 5 号刊行
	4	3	纏向遺跡太田地区便益施設（遺跡見学者用トイレ）供用開始
	7	3	纏向遺跡第 193 次調査開始（～12月1日）
	7	15	第 9 回纏向学セミナー開催 『前方後円墳の築造と葬送儀礼』 講師：小山田宏一氏 対談：寺沢所長
	7	31	『纏向考古学通信』Vol. 11 刊行
	8	31	纏向学研究センター年報第 5 号刊行
	9	2ほか	9/2、9/23、10/14 纏向考古学講座開催
9	22	第 9 回桜井市纏向遺跡調査委員会開催	
10	23	第 8 回纏向遺跡保存管理・整備活用計画策定委員会開催	
10	29	東京フォーラムⅥ『「卑弥呼」発見！「親魏倭王卑弥呼に制詔す」—卑弥呼の外交—』開催 講師：荻谷俊介氏、柳田康雄氏、福永伸哉氏、東潮氏 コーディネーター：寺沢所長	
11	11	纏向遺跡第 193 次調査現地説明会開催（参加者約 700 人）	
12	1	ガバメントクラウドファンディング「纏向遺跡から出土した“卑弥呼の宮殿跡”を柱を立てて復元したい」実施（～平成 30 年 2 月 28 日）	
平成 30 年 (2018)	1	27	第 10 回纏向学セミナー開催 『倭女王卑弥呼の外交政策—景初三年六月の遣使をめぐって—』 講師：塚口義信氏 対談：寺沢所長
	2	24・25	第 6 回定例研究集会開催
	3	8	第 9 回纏向遺跡保存管理・整備活用計画策定委員会開催

年	月	日	主な活動	
平成30年(2018)	3	30	研究紀要『纏向学研究』第6号刊行 『纏向遺跡発掘調査報告書4—第14次・44次・58次・78次・99次・101次・103次調査—』刊行	
	3	31	纏向遺跡辻地区仮整備完了(大型建物群の柱復元明示)	
	5	18	『纏向考古学通信』Vol.12刊行	
	6	1	『赤坂天王山古墳の研究—測量調査報告書—』編集(発行は公益財団法人桜井市文化財協会)	
	7	14	第11回纏向学セミナー開催 『動物からみた纏向遺跡』講師:宮崎泰史氏 対談:寺沢所長	
	8	9	纏向学研究センター年報第6号刊行	
	10	6ほか	10/6、11/3、12/1 纏向考古学講座開催	
	10	14	東京フォーラムVII『「卑弥呼」発見!「卑弥呼、以に死し、大いに冢を作る」—卑弥呼の墓—』開催 講師:荻谷俊介氏、松木武彦氏、渡邊義浩氏、福辻淳 コーディネーター:寺沢所長	
平成31年(2019)	1	27	第12回纏向学セミナー開催 『イト国からヤマトへ』講師:柳田康雄氏 対談:寺沢所長	
	2	4	第10回纏向遺跡保存管理・整備活用計画策定委員会開催	
	2	23・24	第7回定例研究集会開催	
	2	26	史跡纏向遺跡の追加指定(辻地区)	
	3	29	研究紀要『纏向学研究』第7号刊行	
	3	29	『史跡纏向遺跡・史跡纏向古墳群保存活用計画書 概要版』刊行	
	令和元年(2019)	5	1	共同研究員を新たに5名任命
		7	1	『纏向考古学通信』Vol.13刊行
		7	13	第13回纏向学セミナー開催 『神社のはじまりと纏向の王宮・王権』講師:黒田龍二氏 対談:寺沢所長
		7	16	纏向学研究センター年報第7号刊行
9		21ほか	9/21、11/9 纏向考古学講座開催	
10		7	第11回纏向遺跡保存管理・整備活用計画策定委員会開催	
10		27	東京フォーラムVIII『「卑弥呼」発見!「卑弥呼の宗女台与、年十三なるを立てて王と為す」—卑弥呼その後—』開催 講師:荻谷俊介氏、寺沢知子氏、仁藤敦史氏、赤塚次郎氏 コーディネーター:寺沢所長	
令和2年(2020)		2	1	第14回纏向学セミナー開催 『古墳時代祭祀遺跡と伊勢神宮の原像』講師:穂積裕昌氏 対談:寺沢所長
	2	12	「纏向犬検討会」の開催	
	3	31	研究紀要『纏向学研究』第8号刊行	
	3	31	纏向遺跡太田地区エントランス広場完成 史跡纏向遺跡第1期整備事業完了	
	3	31	『史跡纏向遺跡 第1期整備事業報告書』刊行	
	7	1	纏向学研究センター事務所が芝運動公園内に移転	
	9	1	『纏向考古学通信』リニューアル、Vol.14刊行	
	11	16	纏向学研究センター年報第8号刊行	
令和3年(2021)	3	13	纏向考古学講座開催	
	3	26	史跡纏向遺跡の追加指定(辻地区)	
	3	26	史跡纏向古墳群の追加指定(纏向石塚古墳)	
	3	31	研究紀要『纏向学研究』第9号刊行	
	7	7	ガバメントクラウドファンディング「ヤマト王権誕生の地から、最新の研究成果を大発信!—桜井市纏向学研究センター設立10周年の集大成—」を実施(～10月4日)	
	8	25	『纏向考古学通信』Vol.15刊行	
	10	30	纏向考古学講座開催	
令和4年(2022)	11	26	纏向学研究センター年報第9号刊行	
	1	22	第15回纏向学セミナー開催 『女王制を語る—「卑弥呼」は何代続いたのか—』講師:前田晴人氏 対談:寺沢所長	
	2	17	東京フォーラム番外編『纏向遺跡を語る～発掘50周年を迎えて～』動画配信(～3月23日) 出演者:石野博信氏、荻谷俊介氏、金原正明氏、寺沢所長、橋本輝彦 司会:関口和哉氏	

※ 当センターの活動の詳細や具体的内容については、毎年刊行されている『桜井市纏向学研究センター年報』を参照ください。

執筆者一覧（掲載順）

氏名（★印は当センター顧問・共同研究員）生年 出身地
所属・肩書
主な専門分野

柳田 康雄（やなぎだ やすお）★ 1943年 福岡県生まれ
國學院大學博物館客員教授
日本考古学（弥生時代）、中国・朝鮮半島の青銅武器・銅鏡

松本 洋明（まつもと ひろあき） 1958年 兵庫県生まれ
天理市教育委員会文化財課
奈良県の弥生土器

藤田 三郎（ふじた さぶろう）★ 1957年 奈良県生まれ
田原本町埋蔵文化財センター長
日本考古学（弥生時代）

大野 薫（おおの かおる） 1953年 大阪府生まれ
立命館大学文学部非常勤講師
日本考古学（縄文時代）

設楽 博己（したら ひろみ） 1956年 群馬県生まれ
東京大学名誉教授
日本考古学（縄文・弥生時代）

森井 貞雄（もりい さだお） 1955年 大阪府生まれ
大阪府教育庁文化財保護課
日本考古学（弥生時代）

福家 恭（ふけ たかし） 1983年 香川県生まれ
長岡京市教育委員会文化財保存活用課
日本考古学（弥生時代）

七田 忠昭（しちだ ただあき） 1952年 佐賀県生まれ
佐賀県立佐賀城本丸歴史館 館長
日本考古学（弥生時代）

片岡 宏二（かたおか こうじ） 1956年 福岡県生まれ
小郡市埋蔵文化財調査センター所長
日本考古学（弥生時代）

高橋 徹（たかはし とおる） 1950年 大分県生まれ
元 大分県立博物館館長
日本考古学（弥生・古墳）

宮路 淳子（みやじ あつこ） 1967年 東京都生まれ
奈良女子大学研究院人文学系教授
環境考古学

武末 純一（たけすえ じゅんいち） 1950年 福岡県生まれ
福岡大学名誉教授・春日市奴国の丘歴史資料館名誉館長
日本考古学（弥生・古墳時代）・韓国考古学（青銅器～三国時代）

岸本 直文（きしもと なおふみ） 1964年 兵庫県生まれ
大阪公立大学文学研究科教授
日本考古学（古墳時代）

原田 昌則（はらだ まさのり） 1955年 京都府生まれ
元（公財）八尾市文化財調査研究会
日本考古学（古墳時代・古式土師器）

草原 孝典（くさはら たかのり） 1963年 兵庫県生まれ
岡山市教育委員会生涯学習部参事
日本考古学（弥生時代）

坂 靖（ばん やすし）★ 1961年 京都府生まれ
奈良県立橿原考古学研究所主任研究員
日本考古学（古墳時代）

石野 博信（いしの ひろのぶ）★ 1933年 宮城県生まれ
奈良県立橿原考古学研究所研究顧問
弥生～古墳時代

藤原 哲（ふじわら さとし） 1972年 大阪府生まれ
松戸市立博物館学芸員
弥生時代・古墳時代

久住 猛雄（くすみ たけお） 1969年 東京都生まれ
福岡市経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財センター
日本考古学（弥生～古墳時代、土器、集落、墳墓、板石硯）

福辻 淳（ふくつじ じゅん） 1977年 奈良県生まれ
桜井市纏向学研究センター主任研究員
日本考古学（古墳時代）

北條 芳隆（ほうじょう よしたか） 1960年 長野県生まれ
東海大学文学部歴史学科考古学専攻教授
日本考古学、考古天文学（古墳時代）

荻谷 俊介（かりや しゅんすけ） 1946年 大分県生まれ
日本考古学協会会員
縄文の精神文化・前期古墳

塚本 和人（つかもと かずと） 1968年 東京都生まれ
朝日新聞東京本社イベント戦略室次長
考古学・東洋史

橋本 裕行（はしもと ひろゆき） 1959年 神奈川県生まれ
奈良県立橿原考古学研究所特別研究員
東アジアの考古学

寺沢 薫（てらさわ かおる） 1950年 東京都生まれ
桜井市纏向学研究センター所長
日本考古学（弥生時代）

山崎 孝盛（やまさき たかもり） 1976年 広島県生まれ
高知県立埋蔵文化財センター主任調査員
日本考古学（古墳時代）

穂積 裕昌（ほづみ ひろまさ）★ 1965年 三重県生まれ
三重県埋蔵文化財センター活用支援課
日本考古学（古墳時代・祭祀考古学／埴輪／木製品／神宮史）

宮崎 泰史（みやざき たいじ） 1958年 島根県生まれ
元 大阪府立狭山池博物館学芸員
日韓の動物考古学

丸山 真史（まるやま まさし） 1978年 兵庫県生まれ
東海大学人文学部人文学科准教授
動物考古学、環境考古学

近藤 玲（こんどう りょう） 1968年 兵庫県生まれ
徳島県未来創生文化部文化資源活用課埋蔵文化財担当
日本考古学（弥生時代）

中村 俊夫（なかむら としお） 1950年 福岡県生まれ
名古屋大学名誉教授（宇宙地球環境研究所）
地球年代学（第四紀後期）

坂本 稔（さかもと みのる） 1965年 静岡県生まれ
国立歴史民俗博物館研究部教授
文化財科学（年代）

中塚 武（なかつか たけし） 1963年 奈良県生まれ
名古屋大学大学院環境学研究所教授
古気候学・同位体地球化学・年輪年代学

千田 稔（せんだ みのる） 1942年 奈良県生まれ
奈良県立図書館情報館長
歴史地理学

橋本 輝彦（はしもと てるひこ） 1969年 奈良県生まれ
桜井市纏向学研究センター統括研究員
日本考古学（古墳時代）

金原 正明（かねはら まさあき）★ 1957年 大阪府生まれ
奈良教育大学ESD・SDGsセンター研究部員
環境考古学（動植物遺体分析・堆積層位学）

金原 正子（かねはら まさこ） 1957年 広島県生まれ
一般社団法人文化財科学研究センター代表理事
環境考古学（花粉分析・寄生虫卵分析・珪藻分析）

森田 梨恵子（もりた りえこ） 1998年 愛知県生まれ
奈良教育大学大学院教育学研究科修士課程
環境考古学（珪藻分析）

松木 武彦（まつぎ たけひこ） 1961年 愛媛県生まれ
国立歴史民俗博物館教授・総合研究大学院大学教授
日本考古学・理論考古学

福永 伸哉（ふくなが しんや）★ 1959年 広島県生まれ
大阪大学大学院人文学研究科教授
日本考古学・比較考古学

安村 俊史（やすむら しゅんじ） 1960年 大阪府生まれ
柏原市立歴史資料館館長
日本考古学（古墳時代）

吉田 野乃（よしだ のの） 1964年 京都府生まれ
元 八尾市観光・文化財課
日本考古学（古墳時代）

杉本 源造（すぎもと げんぞう） 1960年 奈良県生まれ
野洲市教育委員会主幹（再任用）
日本考古学（弥生時代・古墳時代）

阿部 功（あべ いさお） 1970年 静岡県生まれ
神戸市立博物館学芸員
日本考古学（弥生～古墳時代）

赤塚 次郎（あかつか じろう）★ 1954年 愛知県生まれ
特定非営利活動法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク理事長
日本考古学（古墳時代）・文化遺産学

広瀬 和雄（ひろせ かずお） 1947年 京都府生まれ
国立歴史民俗博物館名誉教授・総合研究大学院大学名誉教授
日本考古学（古墳時代）

古川 登（ふるかわ のぼる） 1959年 福井県生まれ
日本考古学協会
弥生・古墳時代墓制・中世石造物の型式論的研究 他

下條 信行（しもじょう のぶゆき） 1942年 福岡県生まれ
愛媛大学名誉教授
東アジアの初期農耕文化

池畑 耕一（いけはた こういち） 1948年 鹿児島県生まれ
元 鹿児島県立埋蔵文化財センター次長
日本考古学（古墳時代・古代）

真鍋 昌宏（まなべ まさひろ） 1955年 大阪府生まれ
元 香川県埋蔵文化財センター所長
日本考古学（古墳時代）

奥田 尚（おくだ ひさし）★ 1947年 奈良県生まれ
奈良県立橿原考古学研究所特別指導研究員
考古石材学

岡林 孝作（おかばやし こうさく） 1962年 大阪府生まれ
奈良県立橿原考古学研究所副所長（兼）附属博物館長
日本考古学（古墳時代）

村上 恭通（むらかみ やすゆき）★ 1962年 熊本県生まれ
愛媛大学先端研究機構アジア古代産業考古学センター長
アジア考古学、金属考古学、塩業考古学

寺沢 知子（てらさわ ともこ）★ 1951年 奈良県生まれ
神戸女子大学名誉教授
日本考古学（古墳時代）

東 潮（あずま うしお） 1946年 大阪府生まれ
徳島大学名誉教授
東アジア考古学

井上 主税（いのうえ ちから）★ 1972年 大阪府生まれ
関西大学文学部教授
朝鮮・韓国考古学、日朝・日韓交渉の考古学的研究

柴田 昌児（しばた しょうじ） 1965年 愛媛県生まれ
愛媛大学埋蔵文化財調査室長・教授
弥生・古墳時代を中心とした海と山の考古学

辰巳 和弘（たつみ かずひろ） 1946年 大阪府生まれ
元 同志社大学歴史資料館教授
日本考古学（弥生・古墳時代）・日本古代史

甲斐 弓子（かい ゆみこ） 1952年 大阪府生まれ
帝塚山大学考古学研究所特別研究員
歴史考古学

古市 晃（ふるいち あきら）★ 1970年 岡山県生まれ
神戸大学大学院人文学研究科教授
日本古代史（国家形成史 地域社会史）

堀 大介（ほり だいすけ） 1973年 福井県生まれ
佛教大学歴史学部歴史文化学科教授
考古学、日本古代史

加藤 謙吉（かとう けんきち） 1948年 三重県生まれ
早稲田大学エクステンションセンター講師
日本古代史（豪族・渡来人研究）

前田 晴人（まえだ はると） 1949年 大阪府生まれ
元 大阪経済法科大学教授
日本古代史、日本政治史

服部 伊久男（はっとり いくお） 1957年 三重県生まれ
^{ぐんざん}郡山史学会代表
日本考古学（山の考古学）

上野 誠（うえの まこと） 1960年 福岡県生まれ
國學院大學文学部教授〔特別専任〕
日本古代文学、万葉文化論、万葉挽歌の史的研究

山田 浩之（やまだ ひろゆき）★ 1964年 群馬県生まれ
大神神社主任研究員
神道学

水林 彪（みずばやし たけし） 1947年 山形県生まれ
早稲田大学名誉教授
法史学・国制史学・比較歴史社会学

渡邊 義浩（わたなべ よしひろ） 1962年 東京都生まれ
早稲田大学文学学術院教授
「古典中国」学

仁藤 敦史（にとう あつし）★ 1960年 静岡県生まれ
国立歴史民俗博物館教授
日本古代史（都城制成立過程の研究・王権論）

小嶋 芳孝（こじま よしたか） 1949年 石川県生まれ
金沢学院大学名誉教授
日本と東北アジアの考古学（7～10世紀）

森岡 秀人（もりおか ひでと）★ 1952年 兵庫県生まれ
関西大学大学院非常勤講師（考古学）
日本考古学（農耕社会や古墳出現期の研究）

松田 度（まつだ わたる） 1974年 大阪府生まれ
大淀町教育委員会学芸員
日本考古学（古墳時代）

佐々木 憲一（ささき けんいち） 1962年 東京都生まれ
明治大学文学部教授
日本考古学（古墳時代）

小山田 宏一（こやまだ こういち）★ 1955年 鹿児島県生まれ
大阪府立狭山池博物館館長
東アジアの治水・灌漑、古墳築造の土木技術、倭国副葬鏡儀礼

谷山 正道（たにやま まさみち） 1952年 奈良県生まれ
奈良県立橿原考古学研究所特別指導研究員
日本近世史・大和地域史

浦西 勉（うらにし つとむ）★ 1950年 奈良県生まれ
元 龍谷大学教授
仏教民俗学

片山 一道（かたやま かずみち） 1945年 広島県生まれ
京都大学名誉教授
自然人類学、骨考古学、地域人類学（オセアニア）

坂井 秀弥（さかい ひでや） 1955年生 新潟県生まれ
奈良大学名誉教授
日本考古学（古代・中世）

山本 哲也（やまもと てつや） 1954年 高知県生まれ
黒潮町文化財保護審議会
日本考古学（古墳時代・古代）

石橋 源一郎（いしばし げんいちろう） 1959年 奈良県生まれ
前 大和郡山市立片桐中学校校長
中学校社会科教育（主に歴史的分野）

文珠 省三（もんじゅ しょうぞう） 1954年 大阪府生まれ
関西大学非常勤講師
日本考古学・博物館学

井原 縁（いはら ゆかり） 1975年 香川県生まれ
奈良県立大学地域創造学部教授
造園学

来村 多加史（きたむら たかし）★ 1958年 兵庫県生まれ
阪南大学国際観光学部教授
中国考古学・日中交流史

関口 和哉（せきぐち かずや） 1966年 栃木県生まれ
読売新聞橿原支局長
考古学ジャーナリズム

渡部 裕明（わたなべ ひろあき） 1950年 愛媛県生まれ
産経新聞社客員論説委員・歴史ジャーナリスト
歴史ジャーナリズム

黒沢 恒雄（くろさわ つねお） 1953年 茨城県生まれ
元 共同通信社奈良支局長
考古学ジャーナリズム

柳澤 伊佐男（やなぎさわ いさお） 1963年 埼玉県生まれ
日本放送協会
文化財報道、文化遺産学

編集後記

桜井市纏向学センターの設立10周年記念論集『纏向学の最前線』をここにお届けします。

当センターの設立から丸10年と3か月余り、多くの方々よりご協力を賜り、記念の節目に花を添えていただきましたことに、心から御礼申し上げます。またコロナ禍による直接的・間接的な影響を幾度も受けたことに加え、不慣れな者が編集を担当したこともあり、ご寄稿いただいた皆さまにはご心配・ご迷惑をおかけいたしました。そのような中、無事刊行に漕ぎ着けることができましたのは、寛容なお心で編集担当に接してくださった皆さまのおかげと、ひとえに感謝いたしております。

さて本書は、設立10周年記念論集であると同時に、当センターが設立以来刊行を続けてきた研究紀要『纏向学研究』の第10号にもあたります。例年の『纏向学研究』は100ページ前後のものですが、記念すべき第10号はこのような大部となり、普段とは勝手の違う編集作業に四苦八苦するいっぽうで、お寄せいただいた数々の論考に「最前線」で接することができたことを嬉しく思いました。これほどに多彩な分野において、第一線でご活躍されている方々にご寄稿いただき、あらためて「纏向学」の浸透を実感し、10年間にわたる当センターの活動が決して無駄ではなかったと感に堪えません。

とはいうものの、当センターにとって10周年は一つの通過点に過ぎず、纏向遺跡の調査・研究はこれからもさらに深める必要があり、その先には保存・活用の推進という大きな課題が残されています。そのことを肝に銘じ、第11号以降の『纏向学研究』も、皆さまのご期待に沿える内容で刊行していきたいと思えます。

なお飯塚健太・立石千紘の両氏には、執筆者の方々との連絡調整や校正作業の様々な過程でサポートしていただきました。末筆ながらここに記し、感謝申し上げます。 (福辻 淳)

纏向学研究センター研究紀要 纏向学研究 第10号

纏向学の最前線

—桜井市纏向学研究センター設立10周年記念論集—

令和4年7月22日 発行

発行 桜井市纏向学研究センター

〒633-0001 奈良県桜井市三輪686番地 芝運動公園内

TEL/FAX 0744-45-0590

印刷 株式会社 天理時報社

〒632-0083 奈良県天理市稲葉町80